

ボランティア・地域活動を市民へ報告！

南城市ボランティアセンターは、二月二十九日(水)に市大里農村環境改善センターで「平成23年度南城市地域福祉活動実践報告会」を開催しました。多くの学校関係者や市民、地域の福祉施設関係者等が来場した中、市内のボランティア活動推進校3校、地域から2団体が報告を行いました。

ボランティア活動推進校の代表として、小羊保育園、佐敷小学校、久高小中学校が一年間の活動報告を行いました。それぞれ、地域の特性を活かした学校独自の活動報告があり、とても素晴らしい内容でした。また、地域からは「南城市社協フックくん・シちゃん地域福祉活動助成事業」の取組団体を代表して、佐敷の伊原自治会が報告を行いました。伊原自治会は公民館の厨房整備を助成金で行い、月に2回開催されるミニデイサービスでお昼



久高小中学校は代表

御飯やおやつを手作りで利用者に提供しているとの報告がありました。地域実践報告として、佐敷の仲伊保区が自治区での自主防災組織の内容を報告しました。昨年発足した自主防災会の経緯や取組み、課題等を報告しました。どの報告も今後の地域活動の参考になるような報告で、これから南城市の地域発展につながるような活動を南城市ボランティアセンターは支援していきたいと思います。



地域における自主防災組織の活動報告をする仲伊保区・吉田区長

南城市民の善意に感謝！

南城市社会福祉協議会(阿嘉広雄会長)は、二月二十九日(水)の「南城市地域福祉活動実践報告会」の開催に合わせて、同月二十二日から1週間、市の広報などを通じて賞味期限が一ヶ月以上ある食料品の募集を市民に呼び掛けたところ、約百十キロの米や缶詰などが寄せられました。

三月二日(金)、同市総合保健福祉センターで贈呈式を行い、県内で食に困っている世帯へ支援活動を行っている「NPO法人フードバンクセカンドハーベスタ沖縄」へ市民から集まった食料品を贈呈しました。



阿嘉社協会長より食料品の贈呈

贈呈式で阿嘉会長は「一人でも多くの食に困っている多くの方へ届けて下さい。」と述べました。仲村一真理事は「短期間でこれだけ多くの食料品が集まったのに驚いた。大変ありがたいです。」と話していました。

被災地へとどけ！大きな鯉のぼり

市内の中学生がメッセージを書いた鯉のぼりが、岩手県大槌町へ贈られた。岩手県大槌町では「こどもまつり」が五月四・五日の両日に開催される。これにあわせ、大槌町の復興を支援する団体が全国から鯉のぼりを募集した。その募集をホームページで見た仲村

ボランティア情報掲示板

ボランティア募集します

イヤホン洗浄作業のお手伝いボランティア

活動日: 毎週火曜～木曜日
時間: 午後2時～午後4時
場所: 地域活動支援センター「野の花」
内容: 利用者と一緒にイヤホンの洗浄活動
備考: 曜日と時間は相談に応じます

※「野の花」は精神等に障害がある方の自立と社会参加を推進し、住みなれた地域で生活できるよう支援することを目的とする施設です。

デイサービスでお話相手ボランティア

活動日: 月～土曜日
時間: 10時～11時半、14時～15時半で活動可能な時間
場所: あいけい大里デイサービス(大里字稲嶺在)
内容: 利用者(高齢者)とのお話し相手

隆志さん(市知念出身)は、少しでも復興の応援が出来たらとの思いから鯉のぼりを贈ることを決めた。仲村さんは、昨年六月に岩手県へ災害ボランティアとして活動してきており、同年十月に南城市社協が行ったボランティア活動推進校研修会では、講師として災害ボランティアの活動を報告した。その研修会で関わった中学校へ社協を通してメッセージの記入を依頼した。三月下旬から大里・玉城・佐敷・知念中学校とメッセージのラリーを行った。そして、四月十日に知念中学校から仲村さんへ鯉のぼりを手渡した。「心を



完成した鯉のぼりを持つ仲村氏(右)と知念中学校の生徒たち

一つに、一歩一歩」とメッセージを書いた知念中3年の兼島佑太君、山城真倫君は「少しづつでいいから元の東北へと復興して欲しい。遠く離れた沖縄からも応援している」との思いでメッセージを書いた。これを見た仲村さんは「被災地に対して、形があるものを贈る事ができ生徒もより関心が出たと思う。今後何が出来るか肝心。」と話した。